

令和5（2023）年度

学童クラブ事業年間活動報告書

紫竹児童館

	活動の基本目標（指針）	主な取組名	成果と課題
生活援助機能	安全・衛生の確保	手洗い・消毒の励行、衛生管理	・外から帰ってきた際や食事前の手洗い・消毒、食事前・後の机ふきを徹底し、衛生管理に努めた。台ふきは定期的にハイターをした。各自のハンカチを持参させ、共用はしないようにした。机同士の間隔をあけた。
		出欠確認、下館時刻の把握、確認	・出欠確認をし、子どもの所在を明確にした。下校時間が遅い場合は学校との連絡が必要であり、学校の理解を得ることが大切である。
	健康の管理・情緒の安定	連絡帳提出の促し	・連絡帳については、必要時提出するように指導し、保護者との連携をはかった。年度途中からさくらdaysに移行したため、移行後は必要時のみの声掛けにした。令和6年度からは廃止する。
		さくらdaysの活用	・年度途中から活用する。欠席・早退等の連絡や学童からのお知らせ・学童クラブだより等資料の掲載で活用した。
	基本的生活習慣の確立 社会生活技術の獲得	心理面、健康面の状況把握	・子どもの心理面、健康面の状況把握については、普段の様子を理解し、小学校や保護者と細やかに情報を交換できるよう努めた。
		あいさつの励行	・登館、下館時に一人ひとり声をかけるよう心がけ、子どもたちの状況把握、コミュニケーションのきっかけとして努めた。子ども全体にも挨拶についての話をした。
		身の回りの整理整頓	・自分のロッカーの片付け等自主的に行えるよう指導した。
		玩具の使用、片付けについての声かけ	・子どもたち全体で使い方を確認したり、使い方を明確にするなど今後も工夫が必要である。片付けないまま次の遊びにいかないよう随時声掛け
子ども育成機能	生活体験の拡大	新入生を迎える会	・新しい仲間をあたたかく迎えられるようプレゼント作りや、司会や迎える言葉、あそびの紹介の練習を行った。当日、在館生は司会、迎える言葉、あそびの紹介、プレゼント渡し、飾り作りをし、それぞれ役割があるようにした。
		おたん生日のお祝い	・おわりの会の時間に行う。おたん生日のお祝いをし、生まれてきたことへの感謝の気持ちや仲間を大切に思う気持ちを持てるよう努めた。また、司会については、子どもたちが自ら立候補して積極的に行うことができた。
		お腹休めの取組	・長期休業中には、工作などで座って休養できる時間を設け、健康管理に努めた。
		お店やさんごっこの準備	・事前の3年生会議では乗り気ではなかったが、当日は商品の入れ替えや接客・呼び込みなど意欲的に頑張っていた。
	社会性の養成 自立の促進と自主性の尊重	ドッジボールの取組	・ドッジボールフェスティバルに向けて練習に取組む。ルールの確認や挨拶なども練習する。
		3年生会議、2年生会議	・学童のリーダーとしてどのように日常過ごすのか、行事の内容、おわりの会の司会、月の目標決定などを行う。来年度学童のリーダーになる2年生には前もって会議を1回行い『3年生になったら自分たちがリーダー』という意識を持ってもらうようにした。
		おわかれ会	・今年度のメンバーで楽しむ最後の行事で、3年生が考えたドッジボールでみんな遊びを楽しむ。3年生は審判などを手伝ってくれた。また、おやつも特別なものを用意した。
		子育てに必要な情報の提供と交換	・毎月発行で、行事予定や学童クラブでの子どもの様子を伝えることができた。 ・裏面は写真が多くなるようにし、見やすい紙面作りにつとめた。年度途中からさくらdaysにてカラーで見られるようにした。より様子もわかりやすくなった。
子育て支援機能	子育ての仲間づくり	保護者懇談会	・家庭と児童館における子どもの様子について情報交換を行い、共通理解に努めた。また、普段顔を合わせることの少ない親同士が顔合わせをし、同じ学童クラブの保護者として関係をつなげることができた。会の中で保護者交流の時間を設けることにより、短い時間ながらも交流ははかれた。土曜日昼・夜間に行う等日時の設定には配慮したものの全体的に出席者は少なく、今後保護者懇談会の持ち方に工夫が必要である。
		個人懇談	・個人懇談では、子どもの具体的な様子を情報交換できた。日常的・継続的に、普段の子どもの様子や課題を伝える工夫が必要である。
		しちくじどうかんこどもまつりへの参加・協力の働きかけ	・今年度は乳幼児向け、小学生向けに日程・時間帯を分けて実施。3年生にまつりの絵を描いてもらい、子ども実行委員等につながるよう声掛けもした。保護者に協力の働きかけはしなかった。
	子育てを支えるネットワーク形成	親子交流行事	・3回行う。保護者間の交流もあり、子どもの様子を知ってもらういい機会になった。『親子あそび』『親子ドッジボール』では参加者同士交流を図れた。『親子防災教室』では外部の方に来ていただき防災の話を親子で聞き、勉強できた。
		小学校、保育園、関係機関との懇談	・子どもの全体的な姿を理解し、子どもへの日々の関わりや対応を工夫することができた。また、子どもの様子を伝えることで、子どもが直面している課題や問題を理解し、工夫することができた。今後も積極的に連携をし、相互理解を深め、共に子どもを見守っていく関係作りが必要である。
		介助者ミーティングの開催	・今年度は行えなかった。随時聞き取りを行う。
地域会合、地域行事への参加	・子どもが抱える悩み、問題、課題を地域に発信し、地域全体で子どもを育て、子育て家庭を支えていく体制作りが必要である。		

